

ICPブリース工法の中国北京市でのデモ施工

何 瑤 ICPブリース協会技術課長

改革開放の進展により経済成長の著しい中国、そこにオリンピックという要素が加わればさらに活況を呈すことは想像に難くない。過去の例を見ても日本は東京オリンピック開催後の7年間で、年平均10%の高度経済成長を記録し、韓国のソウルオリンピックでは開催後の7年間は、年平均GDP成長率は約9%を達成している。このことからオリンピックが中国経済の成長の大きな原動力となることは間違いないでしょう。

北京市では、開催決定の2001年から5年間で、都市インフラ整備に1800億元を当てる予定であった。内訳は、

- ・地下鉄や空港などの交通網建設に900億元
- ・環境の改善、整備に450億元
- ・情報化投資に300億元
- ・水道、ガス、電気などの生活インフラの整備、改善に150億元となっている。

このような背景で、(株)湘南合成樹脂製作所はICPブリース工法を代表とした非開削管路更生工法を紹介した。ICPブリース工法の中国名は「SIS非開削管路修復技術」と暫定している。

北京市市政工程管理处の総工師任 明星氏のご協力で、(株)湘南合成樹脂製作所が11月に北京市市内の住宅団地勁松南路でICPブリース工法よりデモ施工を行なった。

施工規模：本管

管種：鉄筋コンクリート管
管径：φ400mm
長さ：L=42.16m
土被り：2.8m
マンホール
直径：1100mm
深さ：2.8m

構造設計：以上の現場状況によって、構造設計を行った。

本管
二層構造管
結果：t=6.0mm

Bタイプスタートライナーを使用する

マンホール

リブ構造を採用する

板厚：4.5～10.5mm

デモ施工スケジュール：

- 11月15日 含浸設備を設置する
- 11月16日 マンホール含浸
- 11月17日 本管含浸
- 11月18日 マンホール施工
- 11月19日 本管施工及び「新技術推薦会」を開催
(現場見学を含む)
- 11月20日 片付け

デモ施工に当たって、北京市で「新技術推薦会」を企画し、11月19日に、施工現場近くのホテルで「SIS非開削管路修復新技術推薦会」を開催した。主催は(株)湘南合成樹脂製作所で、協力会社は中国建築材料科学研究院および北京市市政管理处である。

出席者は中国建設部科技発展中心、中国コンクリート協会、中国水ネットワーク、中国市政華北設計院、国家化学建材試験センター、中国建設報、中国建材報、建設科技雑誌、北京市水務局、北京市政管理員会、北京市政工程研究院、北京市政工程コンサルタンツ、北京建築工程学院北京晩報、大成建設、大成ロテックなど。



デモ施工現場の様子